

# 神戸画人 1

## 小磯良平

〈洋画家〉



こいそ りょうへい  
一九〇三ノ神戸に生まれる 一九二二ノ神戸二中を卒業、東京美術学校西洋画科に入學 一九二八ノ渡仏 一九三六ノ新製作派協会を結成。以後日本洋画壇の巨匠として活躍、その豊かな女性像は人気が高い。昨秋文化功労賞を受賞され、益々画境に磨きがかかる今日この頃です。

## 私のコスチューム

コスチュームと云う言葉を用いる場合の私の頭には、現在の女性の服装は関係が無い。私の頭には若い頃からみている欧州の<sup>ヨーロッパ</sup>繪画の服装が、コスチュームと云う言葉を通してイメージが浮かんで来る。時代に関係はない。例を静物にとってみても、シャルダンの静物であつたりセザンヌの静物であつたりと云う物のみかたをするわけである。だから私の描く婦人のコスチュームは時代不明の場合が多い。何処かコロロの描く女の服装であつたりドガやマネの描く婦人の服装であつたりするのである。

私の親戚すじの伯母さんの姉さんが、明治中期にカナダの公使夫人であつた頃のコスチュームを譲り受けて、近頃よくそれを描く機会があるが、それも時代に関係ない私の流儀からの取りあげ方である。ボロボロになつてしまつたがコルセットのように胸をしめつけるための鯨のヒゲが縫い込んである手間のかかつた仕立てである。

今、一つのコスチュームの場合、六・七年も前の事であるがフランスの婦人をモデルにお願いして描いたもののなかに、クラシックなコスチュームをその婦人に考えてもらつてこしらえたのが一枚ある。それもその仕立てあがりに欧州の人でなければならぬ気の配り方があつて、日本の服飾家にみてもらつた時に、その事を指摘しておられた、という事があつた。

その様に考えてくると私の描くコスチュームは無茶苦茶な特殊なものと考えて頂いて結構である。



堀内初太郎

# 神戸の風色

夕日<sup>1</sup>








A HAPPY NEW YEAR

新年は1月7日より平常通り営業いたします。  
営業時間午前10時から午後7時 年中無休

最高の品質と信用を誇る毛皮専門店

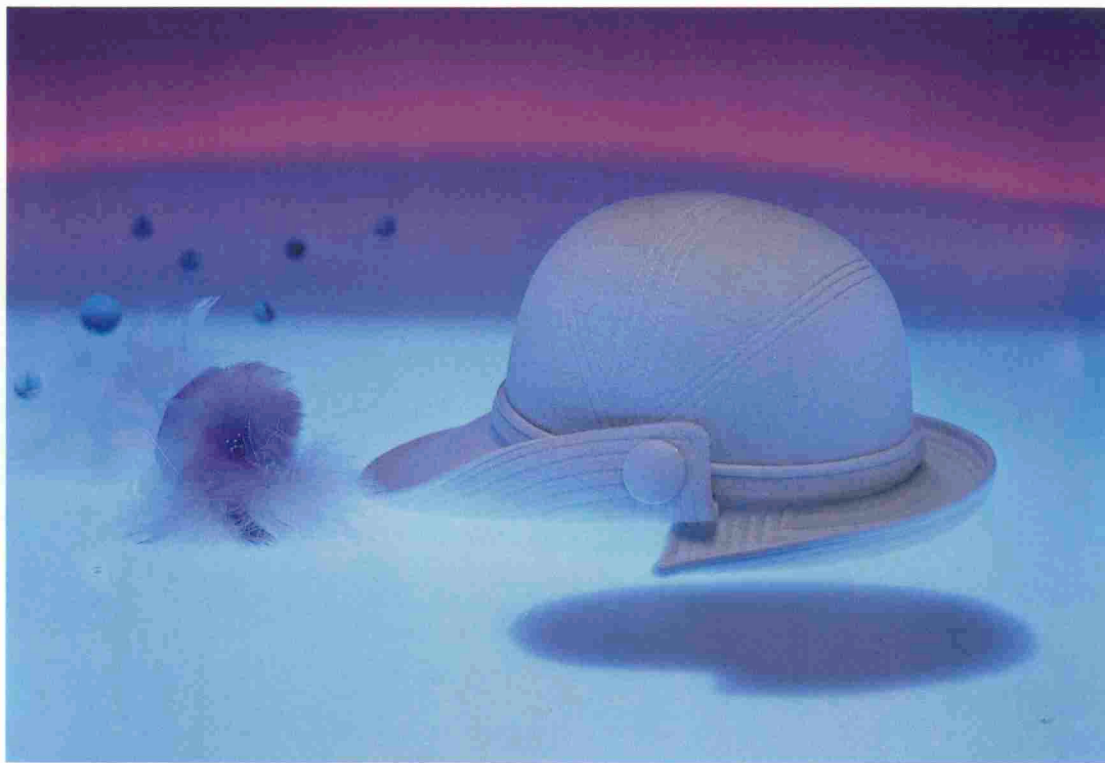
 **ニ一毛皮店**

神戸市葺合区御幸通 8 神戸国際会館 1 F  
☎078-221-3327

左：カナディアンセーブルジャケット (MADE IN U.S.A.)  
右：ロシアンセーブル8分コート (MADE IN U.S.A.)

Stylist/Chie Oshima PHOTO/Y. Sugio 協力/マキシム St. ジョージジャパン

あけまして おめでとう ございます 1980元旦

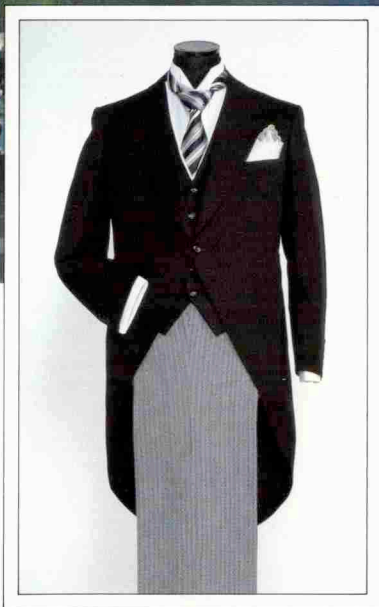


婦人帽子

マキシ  
maxim

神戸市生田区北長狭通2丁目8<トアロード> TEL.078・331・6711～3  
東京店/品川区西五反田 TEL.03・494・3129～30

*Most Beautiful Quality Life*



A HAPPY NEW YEAR

創業明治十六年

**金 柴田音吉洋服店**

神戸・元町4丁目南 TEL (078) 341-0693  
大阪・高麗橋2丁目 TEL (06) 231-2106



A ● HAPPY  
NEW ● YEAR ● '80

新しい年を迎えて  
何かしら心ひきしまるものを  
感じるのは、  
現代を生きている女性の証拠。

そんな女性のために、と  
今年もムラタはより優れた  
ファッションを提供いたします。  
どうぞ よろしく お願い申し  
上げます。

真珠・貴金属・毛皮・輸入婦人服

**ムラタ**

さんちかレディスタウン  
(神戸市生田区三宮町1丁目1)  
☎ (078) 391-3886

本社  
(神戸市生田区元町通6丁目35の2 明邦ビル)  
☎ (078) 341-8041



# 謹 賀 新 年



世界のオシャレをお届けする

ウネ  
KOBE UNE

本 店・神戸元町1番街・078-331-3 1 1 2

別 室・元町1丁目(穴門筋)・078-332-2 8 0 0

東急百貨店・渋谷店・日本橋店・札幌店・吉祥寺店・東横店

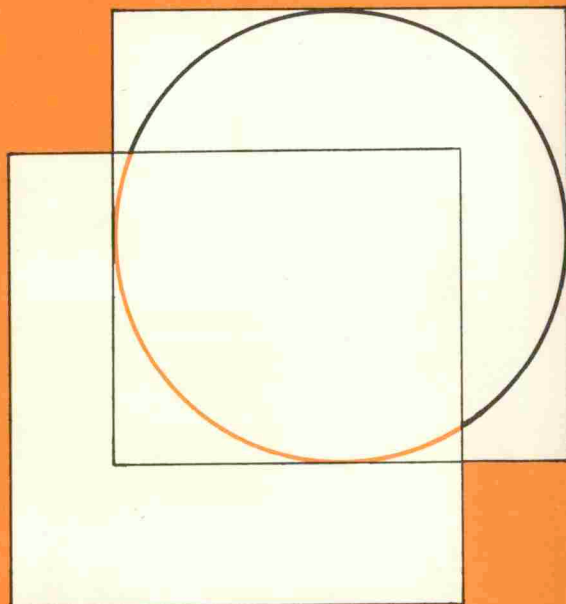
これは神戸を愛する人々の雑誌です  
あなたのくらしに楽しい夢をおくる  
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ  
これは神戸っ子の手帖です

## 新年号目次 1980・No.225

表紙／小磯良平

セカンドカバー／僕の見た神戸(13)／西村 功

- 9 第4回神戸文学賞受賞者／高木敏光  
11 第4回神戸女流文学賞受賞者／田口佳子  
13 ある集い／神戸商工会議所国際委員会  
15 コウベスナップ  
16 新企画 神戸・画人1／小磯良平  
18 新企画 神戸の風色1／堀内初太郎  
29 私の意見／塩谷忠男  
31 随想／元永定正／山田昇一／岡田嘉夫  
34 ある集いその足あと／山本博男  
36 連載エッセイ・私のひろいもの(13)／竹中 郁  
38 新連載 神戸歳時記1／三枝和子  
40 甲南女子大学と神戸(終)／鯨坂二夫  
42 インタビュー／中内初ダイエー社長をたずねて  
44 新春鼎談／神戸が先取りする80年代の都市像  
坂井時忠／奈良本辰也／田口寛治  
50 ポートアイランド情報・7  
53 第4回神戸文学賞同女流文学賞発表表  
54 第4回神戸文学賞・同女流文学賞選考委員会  
足立巻一／小島輝正／森川達也／島 京子  
59 経済ポケットジャーナル  
60 キャンペーン・国際文化都市神戸を考える  
神戸の未来をつくる博覧会に向って翔ぶ  
渡辺祥夫／安岡利美／岡本光弘／菱井良一／遠藤 浩  
66 地域文化論・5／アメリカの四研究所を視て／米花 稔  
69 ノコちゃんの華麗なる食べある記(13)／小山乃里子  
72 連載マンガ・パントマイムジュンスII／岡田 淳  
76 KOBE FASHION SPOT  
82 アンド&神戸／小磯良平／文・竹中 郁  
86 NEUE MODE MARCHEN・25／篠原順子  
113 神戸の催し物ご案内(1月)  
114 動物園飼育日記(170)／亀井一成  
117 神戸の集いから  
122 六甲山100コースの雄岡山麓岡山／新谷琇紀  
30二本松林道／高橋 孟  
126 話題のひろは1屋和台ファミリーホームオープン2神戸二紀女流新人展  
128 神戸を福祉の町に(73)／橋本 明  
130 K・F・Sニュース  
132 インタビュー／美しき絆を歌い続けたい／谷村新司(アリス)  
136 ファッションレポート／インドサリーのファッションショー  
138 私の映画手帖(25)／淀川長治  
140 女体百景 89／バスの女／細川 董  
142 ぴっといん  
144 ポケットジャーナル  
147 神戸百店会だより  
148 新連載小説 影と棲む(第4回神戸女流文学賞受賞作品)  
田口佳子 絵／田中徳喜  
154 新連載小説 溶ける闇(第4回神戸文学賞受賞作品)  
高木敏光 絵／木村光佑  
159 トーク&トーク・トラベルコーナー  
176 再びアルファベットアベニューの「H」／新井 満・石阪春夫  
178 海 船 港／ロイヤルバイキングシィ



カメラ・米田定蔵／藤原保之／橋本英男／後藤 孝／速水 亨

目次作品／木下佳通代

Kasuo Kimoto

# A Happy New Year



あけましておめでとうございます  
本年も倍旧のお引立てをお願い申し上げます

昭和55年 元旦



年中無休駐車場有



元旦より平常通り  
営業いたしております

## Kitano Club

レストラン ナイトクラブ

## 北野 クラブ

神戸市生田区北野町1-64 ☎ (078) 231-2251

restaurant  
**Blanc de Blanc**

レストラン ブラン ドゥ ブラン 神戸

神戸市生田区京町77-1 神栄ビル7F ☎ (078) 321-1455



甦る情念の気魄。

〈そごう〉が選んだ——

陶芸の粋

題字 望月美佐

## 1月の 画廊催しご案内

●美術画廊(6階)

●12月3日(金)→1月9日(木)

宮下寿峰新春美人画展

●1月12日(土)→17日(木)

■第13回

一松会新春名流書道展

●1月8日(金)→23日(水)

肥前陶芸作家選抜陶芸展

●1月25日(金)→30日(木)

名利高僧墨跡展

※写真作品についてのお問い合わせは、  
6階美術画廊(内線655)までご連絡  
下さいませ。





## 頌春

お慶びの日をより華やかに——。



## 結納儀式用品

遠藤福寿堂

神戸市長田区菅原通4丁目1 TEL 575-2251(代)

☆私の意見

# 都市に 美しさを

塩谷 忠男

△太陽神戸銀行頭取▽



イギリスは紳士の国というけれども、街を歩いている人々の服装は大変質素だし、日本人の方がずっとおしゃれのように見える。イギリスだけでなく、ヨーロッパの街を歩いてみると同じような印象を受ける。

ところが、空港から都市へ向うにしたがって、何ともいえない豊かさを感じる。道路の広さ、街並みの美しさ豊かな緑など、とてもわが国の比ではない。自然と人工の美をうまく調和させながら、年月をかけて作りあげた都市の美観というのだろうか。国民所得では、自由世界第二位というわが国だが、俄か作りの建物同様、都市計画に統一とか調和といったものがないため、都市の美しさに厚みというものが感じられない。

高度成長のおかげで、自動車とか電気製品、衣服など個人の生活面ではおそらく世界でも指折りの高い水準に達していると思われるが、下水道とか都市公園、道路舗装率などの社会的施設では全く見劣りがする。英国病などと思口をいわれるイギリスでも、ロンドンの市内や郊外のあの広大な公園を一目みれば、真の豊かさとは一体何だろうと考えるようになる。

一人当りの公園面積（五一年現在）をみると、ワシントンの四五・七平方メートル、ロンドンの三〇・四平方メートルに対し、東京都（区部）は僅かに一・五平方メートルに過ぎない。下水道普及率（五〇年現在）でもイギリスの九四％、西ドイツの七九％に対し、わが国は二三％に過ぎない。生活文化施設に関する限り、まことにお粗末という外ない。

わが神戸市は、他の都市と比較して、山と海という自然条件ではきわめて恵まれた環境にあり、宮崎市長のすぐれた都市経営の手腕もあって、比較的整備された美しさをもっていることは嬉しいことだが、これをもっと美しくして日本一の都市にするためには、市民一人一人の美観に対する意識と協力がさらに必要となる。自分の庭を大事にする以上に街を美しくしたいものである。

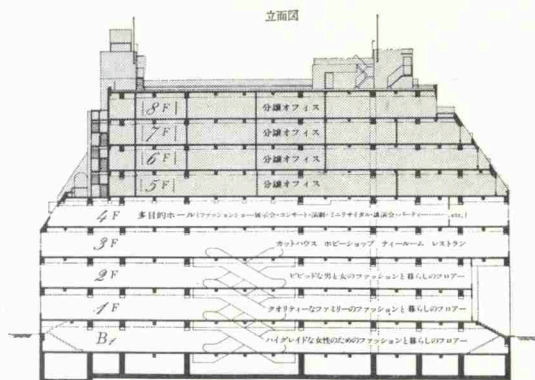
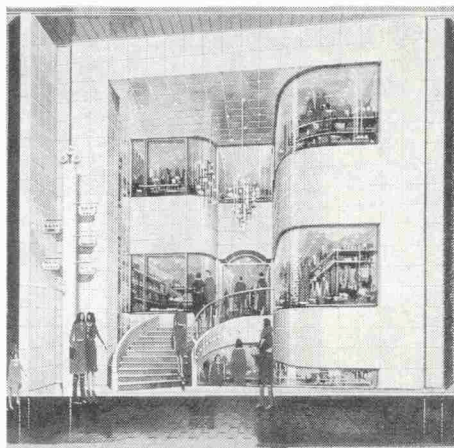


1980年9月open予定  
●ジェムテナント募集!



しにせの元町一番街の  
専門店へ仲間入り  
新しくパーソナルに...

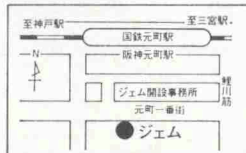
# 80年代のKOBE元町ファッションスペース ジェム



●地下1階、1、2、3階がファッションスペース「ジェム」です。  
●4階は、1Fでもエレベーターが利用できるよう設けられています。  
●5～6階は分譲オフィスです。

当社所有賃貸部分  
賃貸部分の名称  
主  
賃貸面積  
敷地面積  
テナント募集予定日  
オープン予定日  
管理会社  
内装管理

地下1階～地上4階  
ファッションスペース「ジェム」  
株式会社ジェム  
15,20㎡(4,60坪)～114,98㎡(34,78坪)  
24区画  
昭和55年7月上旬  
昭和55年8月下旬(秋物にてオープン)  
株式会社ジェム  
金丸建築設計事務所



●お問い合わせは

株式会社 ジェム

〒650 神戸市生田区元町通2丁目181  
元町一番街山側角コトブキ西隣り  
TEL 078-392-1234 係/安達昭三



# 随想



カット 元永 定正

## 駄作と時間 のことなど

元永 定正

△画家▽



七九年もまたいくつかの個展やグループ展や版画の制作や、私の絵に関係する諸々の仕事をしながら忙しく通りすぎた。八〇年の今年も同じような繰返しがあるのだろうと考えられるのだけれど、展覧会というのは作品がたくさん出来たからということとで発表するのが自然なのだがこの頃のように年間十数回から二十回ぐらい発表しているとなかなかそうも行かなくなつて展覧会の開催日に追われて四苦八苦ということになつてく

る。こんなことは純粹でないと悩んでみたり、俺は天才やさかいに何んとかなるわいと楽天的に考えてみたりしているうちに時間はどんどん過ぎて行く。考えてばかりいても作品が生れないのでなんとか早く描けて面白い作品が出来ないものかとずるがしく考えたがそのうち一つの結論に到達した。それは駄作をつくつたらよいのではないか、ということである。駄作でもよいのだつたら、と考えてしまふと気分が楽になつて仕事はかどるのである。タイトルは元永定正駄作展としよう。これはよい考えが浮んだ、と我れながら悦に入る。そうすると、不思議なことに駄作どころか面白い作品が出来てくる。不思議なことといつたけれどこれは不思議でも何んでもない。気持が楽になると世間のことなど気にしないで勝手が出来て何でも作品にしてしまふ。絵は

この様に描かねばいけないといった規則があるでなし何をやつてもよいのであるとわかつていても、やっぱり少しでもよいものを発表し続けねばいけないと考えてどこかで自分自身をしばりつけていた何かを捨てることが出来るようである。またよい作品というものは過去の基準が私のどこかに潜在していてそれにたづなつて考えることで、それを破ることは新らしい作品が生れることにながつてくるといえるだろう。逆説的な言い方だけれど駄作でもよいと考えることは傑作を生む一番よい考えではなからうか。傑作ばかり描こうと思つてみても出来るわけでもなしといつて見ればなおさらよくわかる。私の駄作論をかいいてしまつたけれど結局これは私の方便である。不思議だと思つてゐることは過ぎて行く時間である。どうなることかと思つてゐた個展や版画の制作やいろいろなのが現実のことになつてそしてまた次々と過去の時間になつてゆく。未来はすぐに現在になつて過去になつて行く。ミライゲンザイカコミライゲンザイカコと秒針のようにいつてもどこかで声が聞えてくるようだ。この文章をかいていても始めから終りまでペンのさきから時間が次々と流れて行く。時間とはいつた何なのか。勿論生物も含め



て自然はみな例外なしに時間の乗りものに乘っている。人類が消滅して地球も太陽も無くなってしまう時間も時間はどこまでもどこまでも果てしなく流れて行く。ミライゲンザイカコミライゲンザイカコミライゲンザイカコ……その中で駄作も傑作も生れてくる。

■元永定正個展(一月五日〜三十一日)  
ギャラリー神戸時代に

## ポートピア'81の あとにくるもの

山田 昇一

神戸商工会議所専務理事



昨年六月、私は神戸市の狩野助役を団長とする、「リガ市訪問神戸市親善使節団」の一員として、訪ソの機会にめぐまれましたが、その途路立ち寄ったモスクワでの強烈な印象の一つに、建設ブームのすさまじさがありました。

翌年に迫った、社会主義国としては史上初のオリンピックに備えて、当時モスクワでは、郊外を中心に、各種競技場、選手村、ホテル、地下鉄延伸工事等々、大規模な建築土木工事が急ピッチで進められており、「オリンピックを成功させよう」というモスクワっ子

の意気込みを、ひしひしと感じさせられたものであります。ただこの点に關し、人ごとながら一寸気になるしたのは、わが国でも、オリンピックとかエキスポといった国家的大行事のあとは、きまっと大変な不況に見舞われた、ということがあります。社会主義計画経済の国だから、わが国とは根本的に事情が異なるとはいうものの、オリンピックが終り、潮が引くように人々の去った後、ホテルなどはどうなるのか、閑古鳥が鳴くことにならないか、という心配です。この疑問に対するモスクワ市当局の責任者の答は、誠に強気なものでした。言うところによれば、今ソ連でも大変な旅行ブームで、近隣友邦諸国はもとより、ソ連邦内各地から、モスクワ見物、レーニン廟参拝に上京するもの数知れず、しかもこれらの観光客の中で、希望通りホテルに宿泊できるものは二割程度、あとの八割は、親戚、友人、知人等、あらゆるつてをたどつての民宿だという。ホテルはいくらあっても足りない、あとの心配など全くない、ということでしたが、果してどんなものでしょうか……。

ひるがえって、八十年代を迎えた神戸に目を転じますと、現在神戸市にとって最大の関心事は、一年余後に迫った、「ポートピア'81」

でありましょう。なにがなんでもこれを成功させ、そしてこれを起爆剤として、地盤沈下が言われて久しい神戸経済の復権へとつないでゆくことが、八十年代のスタートにあたり、われわれ神戸市民に課せられた最大課題と申せましょう。幸いにして昨年春、博覧会協会が設立されてから、その施策宜しきを得て、ムードは全国的規模で日毎に高まり、観客動員数、出展企業数等も、予想以上が見込まれるまでになりました。こうなればもうしめたもので、博覧会そのものが成功裡に終るであろうことは、信じて疑わないところであります。ところが人間欲が深いもので、一つの関門をパスすると、すぐその先が気になります。博覧会期間中、「ポートピアへ、ポートピアへ」と草木もなびかせる六〇〇万の人々は、単に博覧会場だけでなく、三宮を中心とする商店街にも、大へんな賑わいをもたらすでありましょうが、博覧会が終ったとたんに「宴はてて、寂漠残る」ということになっては、由しき問題です。

博覧会場跡地利用の問題、或は各種恒久施設の有効活用方策の検討等、「ポートピア'81のあとにくるもの」に対する備えは、いくらか早くはじめても、早すぎるということはありませんまい。

## 絵草紙源氏物語と

### 神戸の町のS婦人服飾店と無関係な関係

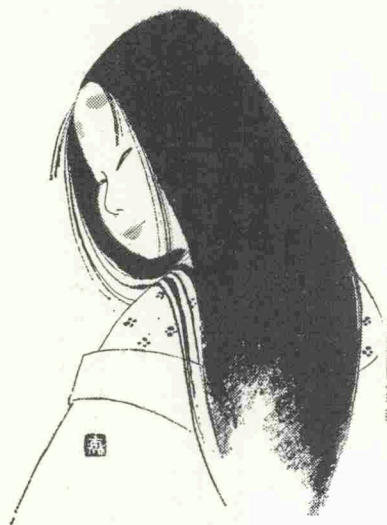
岡田 嘉夫

ハイラストレーターV

生まれ住んで三十何年、一度も神戸はいい町だと思っただ事がない。権威ある美術学校もない。若いかけ出しの絵かきにはなかなかいい仕事は見つからない。安い貸画廊は少く発表と鑑賞もできない。

「もう、エエワイッ！」とばかり神戸を捨てて、着いた所は東京という町。

住んでみて十何年、これまた、一度も東京はいい町だと思っただ事がない。権威ある美術学校は多いが、あたり前の答として絵かきのハンラン。仕事の奪いあい。立喰いうどんの七味トンガラシも奪いあい。安い貸画廊では、猫も杓子も個展を開いていて、いい個



展は、宝くじを当てるように、お目にかからない。結果、東京に出たものの都心部に出るのは月一回ほど。「アホらし。神戸に住んどうて新幹線で月一回東京へ行った方がなんぼかトクやった。」だけれど、何んだかんだといってみてもやはり私は、神戸を一度離れてみて良かったのである。

東京を無視すればするほど、今まで感じなかった神戸の町が持っている、空気・センス・気風等に敏感になった。一例だが「絵草紙源氏物語」に神戸のそれを顕著に取り入れた。いつも目につく大丸前に本店のあるS婦人服飾店の広告が発端である。(タイトルでいったように、私とこのS店とは何の関係もございません)

イタリーシルクプリントであろうか、かーっと目を射る素晴らしい発色の服を着たモデル写真。顔の三倍もあるような蝶が肩から胸へ一つ二つのワンピース。時には黒地のすつとんとんのイブニングの上半身に一輪の巨大なカトレアが覆いかぶさったデザイン等、ど肝を抜く美と遊びの感性がそこにあつた。

「こんなびっくりするようなものをスツと売る町、またこれをスイ

と着る町、これが神戸だったのだ」それに気付いたのと、時を同じくして、私の「光る源氏」の、「紫の上」の、「明石の上」の衣裳が変わり始めた。

今までの面白くもない有職故実の約束事を守った紋様・くすんだ色目は、自由に解釈した楽しい華やいものになり、登場人物全員、神戸的センスに染っていった。

「若紫」の小袖は顔の三倍もあろう蝶が二つ三つ。「夕霧」の直衣は巨大な唐草が肩から胸へからまる。「玉鬘」の単がさねはジャンボな鳥の乱舞。全く既成の源氏解釈では、開いた口がふさがらない時代考証の絵ということになるでしょう。ともあれ、人が何といつても、昭和に生きている私は、昭和の感性でまた、私が本能的に持っている私自身の感性が、納得ずくでとらえた私なりの源氏絵の世界である。これすべて神戸のなせるワザ。「それ見い、美術学校がないたら、画廊がないたら、小さいことにモンクつけるもんやあらへん。神戸の町は、オマエの知らん間に、いろんな感性を教えたつとつたんや、感謝せえ！」

と、神戸の町は私にほざく。

「へエ、オオキニ、オオキニ」



岡田嘉夫絵草紙源氏物語原画展(文田辺聖子、角川書店刊)(一月十七日・二十一日) 於・大丸神戸店4F美術画廊

□ある集いその足あと

## 神戸商工会議所 国際委員会

山本 博男

〈神戸商工会議所国際委員長  
神戸山本ビル、神戸山本商店取締役社長〉

阪神間には四三カ国の外国公館（総領事館、領事館など）があります。この方達や在住の外国人と毎月一回第二水曜日に集まって昼食を共にしながら、気楽にお話をする会で、二十年間欠けることなく、この十一月で第二三二回を数えました。アメリカの領事さんとソ連の領事さんが、料理をつつきながら日本語でスキーの話などしている会。それがこの国際委員会



テーブルナンバーはくし引きで。食後の和やかな風景。

月例会です。生みの親は、当時神戸商工会議所の国際委員会委員長であった故小林秀雄さん（当時神戸電鉄社長で、現在の北野町名物『白い異人館』の持主であった。）、が、外国人と親しくなるためには、袴を脱いだ外国人と神戸人との交流の場を創りたいと提唱され、昭和三十四年六月から毎月一回、当時は第三水曜日の正午から一時間半、会費自己負担制で始まったものです。月例会は正午から三十分間立話しをしてもらっています。が、日本語、英語、スペイン語、フランス語、ドイツ語等が入り交って聞こえ、まことに国際的な雰囲気包まれています。そして、別室で着席をして昼食をとったあと、各国領事館、航空会社、船会社、国内関係機関等の代表が交代でスポンサーになり映画を上映したり、スピーチをしたりして友好親善の強化、相互理解の促進に努めています。

小林さんは、常日頃、「肩のこらない集まりにするためには、規則づくめの会ではないけない、何のオブリゲーションもない、紹介者さえあれば誰でも入会できるような会を」と口ぐせのように申されそれが一種の伝統となつて、今日に引き継がれています。集まる方達も、はじめの頃は一般の外人が多かったのですが、このような

交流機関のない阪神間の外国公館の方達が、いつの間にか積極的に参加されるようになり、現在では先述の全公館の方々が会員で、入れ替り立ち替り参加され、自由主義国の外交官も、社会主義国の方々も、それこそ本当に膝を付き合わせ歓談をする場になつてしましました。現在、毎月約三〇〇名の方々に案内を出しておりますが、ここ数年毎月の出席者は増加して五十〜六十名に達しており、これ以上ふえると会場の収容能力に限界があるので頭を痛めています。

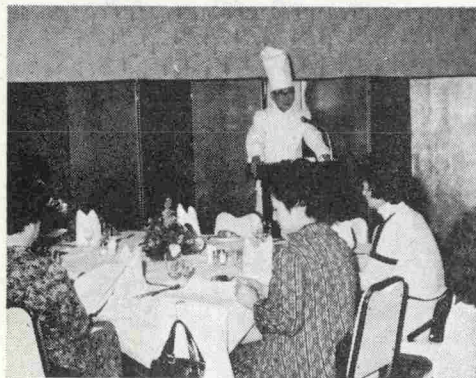
当会議所の国際委員会は私をはじめ一六名の委員で構成され、来神外国人の受入れをはじめ、国際経済親善交流活動を活発に行っていますが、この月例会ほどこい催しはないと出席者各位とくに外国の方々より好評を博しております。外国公館の方々とシビリアンとの定期的な交流の場としては、全国では神戸だけにしかありません。神戸人として誇つて良いものの一つではないかと自負しています。創始者であられた小林さんも今は亡く、国際委員長も移り変つて現在では私が受け継いでおりますが、この良き伝統を守り、ますます親善の実を挙げたいものと念願している次第です。

お問合わせ／神戸商工会議所国際貿易部  
TEL (二五) 一〇〇一



# オリエンタル レディスクラブ

会 員 募 集 中



月例グルメの会：シェフによるメニュー説明

年会費：お一人 5,000円

割 引：オリエンタルホテル、六甲オリエンタルホテル  
での宿泊、飲食の際サービス料10%割引いたし  
ます。その他のいろいろの特典がございます。

特別催：随時、会員のための特別催しをいたします。

お問い合わせ

**オリエンタルレディスクラブ事務局**

神戸市生田区京町25 オリエンタルホテル内

☎(078)331-8111

# 新年賀儀



本	店	三 宮 生 田 神 社 前	TEL (331) 1694
三	宮	店 三 宮 大 丸 前	TEL (331) 2101
さん	ち	店 三宮地下街スイーツタウン内	TEL (391) 3539
西	ド	イ ツ 店 フランクフルトゲートハウス内	TEL (0611) 280262



□連載エッセイ／私のひろいもの△11▽

# 今東光

## 岡惚れふたつの事

竹中 郁 △詩人・絵も▽

小説「お吟さま」で直木賞をもらった後、河内の天台院という荒れ寺にこもって、せっせと河内の風俗小説をかいていた今東光と大阪で出会うことが多かった。かれこれ二十五年も前のことだ。

「きみはずっと神戸にいたのだから、こんな人を知らないかな。角田という家だ。一家全部が英語でくらししている家だ。中山手のミカエル教会の近くに住んでいた」。

この質問はすぐその場で解決した。その息子のヒロというのと三宮神社境内の「南国」という茶店で知り合いになっていたからだ。「あれは神戸ならではの一家だなあ」。今さんの話では父親が居留地の商館へ出ていて、つまりそれが英語一家がで上がったもとなんだ、という。

中山手のミカエル教会は今の相楽園の西南角に道をへだててあった。ツタのからまった木造のアメリカ西部にあるような建物だった。そこらは明治以来ひらけた神戸の代表的な一画で、商館番頭

や船乗りがあこがれた所だったのだろう。神戸登山会の会長の塚本永堯とか、神戸で最初の舗装道路を国鉄沿いの北長狭通りに造った浅見技師（これが浅見淵や弟の篤の父だ）が住んでいた。

朝早く諏訪山の東寄りの温泉に集って朝風呂会休みの日は山登り、夏の晩は布引まで足を伸して滝の前の橋のようなテラスでビールを飲んで涼をとる。婦人どうしは自宅で紅茶会をひらいて手製のビスケットを自慢しあう。これが大たい明治から大正へかけての山手界隈のスタイルだった。

今東光、今日出海の二兄弟もこんな空気を知っているはずだ。浅見兄弟と、うんと時代は若くなるが川崎芳熊さんが川崎造船所の専務時代ここに住んで、のちの小説家久坂葉子が育った。妙に小説家を育てたがった土地といえる。

さて、今東光が私に呼びかけてさがしていた人物は女性であって、一人は先の英語一家の角田の娘で神戸女学院へ通っていた美人。もう一人は加



納町から下山手通八丁目の親和女学校へ通っていた福井という美人。とにかく、エビ茶ハカマに白リボンというような通学姿にぞっこん惚れて、人生流浪のうちにも忘れられなかったらしい。

角田のヒロさんに聞いてその姉さんの健在を今東光に伝えたら、いっぺん会いたいもんだが、ペラペラと英語で話しかけられたらこのおれはぐうの音も出ねえや。とべらんめえ口調でばやいた。

角田のヒロさんとは妙に三宮から昔の三角帳場へ抜けるあたりで出会うのがくせだった。ところがこないだは勝手の違うところで会った。違うのも道理、長年美粧院クラヤの亭主であそんできた



のが、その英語が買われてネッスルの社長秘書として勤めているという。この人が手入れのゆきとどいた犬を引っぱって、神戸の坂道を歩いてあれこれと果物やソーセージを買ってあるいている図は絵になる。「神戸っ子」という題名をつけるにふさわしい絵になる。例の英語で育てた二人の娘さんはどうした、ときくと、二人ともアメリカへ行ってしまった。と少し寂しそうな返事をした。

港というものがもっているある哀愁とでもいふべきものを、この人ももつ年頃になったのだ。